令和８年度第１回神奈川県地方創生推進会議　議事録

開催日時：令和８年 10 月 23 日（金曜日）　15 時 00 分から 16 時 40 分
開催会場：神奈川県庁西庁舎７階 701 会議室
（Web 会議を併用して実施）
出 席 者：西村弥【座長】、麦倉泰子【副座長】、秋吉遼子、石川和幸、大山毅、鎌田健司、境真理子、肖欣怡、千田美佐、本山博幸、後藤千夏子、志賀優夏〔計 12 名〕
次回開催予定日：未定
問合せ先：政策局自治振興部地域政策課地方創生グループ
電話　045-210-3275（直通）
ﾌｧｸｼﾐﾘ 045-210-8837

1　開会

○　長谷川地域政策課副課長：　定刻になりましたので、ただいまから、令和８年度第１回神奈川県地方創生推進会議を開催します。本日はお忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。本日、司会進行を務めます、神奈川県政策局自治振興部地域政策課副課長の長谷川です。

はじめに、本日の会議を円滑に進めるためのお願いです。最初に、オンラインで参加される皆様へのお願いとなりますが、会議全体を通じて、通常時はマイクをミュートにし、発言するときだけ、マイクのミュートを解除してください。なお、発言を希望される際は、Teams の「手を挙げる」ボタンでお知らせください。次に、こちらの会場で参加される皆様へのお願いです。本日は机上のマイクを利用します。発言される際はマイクに向かってお話しください。なお、マイクのボタンにはお手を触れないようお願いします。

本会議は原則公開としており、本日は傍聴の方がいらっしゃいます。

続いて、事前に事務局から電子メールにてお送りした会議資料について確認します。今回配付した資料は、次第にも記載しているとおり、次第のほかに８種類となります。右上に示している資料番号順にご案内すると、

資料１　第３期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略 2025 年度評価報告書概要版（案）
資料２　第３期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略 2025 年度評価報告書（案）
資料３　評価部会意見整理表
資料４　県議会からの意見・要望等の概要
資料５　地域未来戦略の策定に伴う県総合戦略の対応方針（案）
資料６　神奈川県における地方創生の振り返り方針（案）
参考資料１　地域未来戦略（概要）
参考資料２　地方創生 10 年の取組と今後の推進方向の概要

となります。会議中、資料の投映はいたしませんので、お手元の資料をご覧くださるようお願いします。なお、本日、政策局長が出席予定ですが、所用により遅れての参加となります。

2　議事

議題（1）第３期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略 2025 年度評価報告書（案）について

○　長谷川地域政策課副課長：　それでは、早速ですが議事に移りたいと思いますので、ここからは西村座長に議事進行をお願いします。

○　西村座長：　本日はお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございます。今年の７月に評価部会で皆様からご意見をいただき、二次評価の原案という形で固めました。議会での説明も終わっているということですので、それを踏まえて、最終的に地方創生推進会議として二次評価を確定させるというのが、本日の一番大きな目標になります。ぜひ、忌憚のない意見をいただきたいと思います。

それでは、早速議事に入ります。議題１「第３期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略 2025 年度評価報告書（案)」についてです。第３期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略の 2025 年度の評価に関しては、先ほど申し上げたとおり、 ７月に「基本目標１・３」と「基本目標２・４」に分かれて評価部会を開催し、それぞれの部会に所属する委員の皆様からご意見をいただきました。今回は、評価部会での意見を踏まえ、昨年度の取組結果について、更なるご意見をいただき、地方創生推進会議による評価を確定させたいと考えています。

最初に、 ７月に開催した評価部会での議論の結果について、各部会長から説明します。はじめに、「基本目標１・３」の部会について、私から説明します。

「基本目標１・３」については、７月 27 日に評価部会を開催し、所属委員の皆様にご意見をいただいた上で、内容を固めました。部会での議論の結果については、資料３（評価部会意見整理表）にまとめていますが、時間的な制約もありますので、資料１「2025 年度評価報告書概要版（案)」を中心に説明します。

評価部会では、

・基本目標の達成に向けて今後も進めていくべき取組や改善が必要な取組

・総合戦略全体で今後も継続していくべき取組の視点や現在の総合戦略に不足している視点

について議論し、基本目標ごとに４段階評価を実施しました。資料１の８ページに、 基本目標１から４まで、各部会でどのような二次評価を行ったのかについて一覧で記載されています。

まず、基本目標１の評価部会での４段階評価は、見てのとおり「順調に進んでいます」と評価しました。この基本目標１については、一次評価が８つの小柱すべてで「順調に進んでいます」という結果でした。そのため、二次評価としては「順調に進んでいます」という結果になりました。

続いて、基本目標３の評価部会での４段階評価は、「概ね順調に進んでいます」となっています。こちらは、小柱ごとの一次評価を見ると、全体で８つある小柱のうち、４つの小柱で「順調に進んでいます」、４つの小柱で「概ね順調に進んでいます」となっており、評価が拮抗している状況でした。また、数値目標をつぶさに見ても、劇的に改善しているとは捉えがたいということで、「概ね順調に進んでいます」と評価したところです。

基本目標１・３の今後の取組に向けた意見については、資料２「2025 年度評価報告書（案)」の

14 から 15 ページに基本目標１に関する委員の皆様からの意見を、56 から 57 ページに基本目標３に関する意見をそれぞれ記載しています。

続いて、「基本目標２・４」の部会について、麦倉部会長から説明をお願いします。

○　麦倉副座長：　私からは「基本目標２・４」について報告します。７月 24 日に評価部会を開催し、議論しました。「基本目標２・４」の部会でも、「基本目標１・３」の部会と同様、

・基本目標の達成に向けて今後も進めていくべき取組や改善が必要な取組

・総合戦略全体で今後も継続していくべき取組の視点や現在の総合戦略に不足している視点

について議論し、基本目標ごとに４段階評価を実施しました。そして、私と事務局で整理の上、評価部会でいただいた意見と４段階評価案を、資料１「2025 年度評価報告書概要版（案）」及び資料２「2025 年度評価報告書（案）」に記載しています。

資料１「2025 年度評価報告書概要版（案）」の８ページをご覧ください。ページの上段に、基本目標ごとの４段階評価と評価の根拠がまとめられています。

基本目標２の評価部会での４段階評価ですが、小柱ごとの一次評価は「順調に進んでいます」が多くを占めていました。そして、数値目標はすべての数値で前年度よりも改善しているという点を踏まえ、「順調に進んでいます」ということで原案を作っています。

次に、基本目標４の評価部会での４段階評価ですが、一次評価は「順調に進んでいます」と評価した小柱が最も多いということと、数値目標について、７月 24 日時点では、横ばい又は改善傾向であるということを基に「順調に進んでいます」という評価をしました。しかしながら、７月の評価部会開催後に、評価部会時点で未集計であったＫＰＩについて報告を受けました。資料２の 109 ページになりますが、ＫＰＩ進捗状況のうち、上から２つ目のＫＰＩ「障がい者施設入所者の地域生活移行者数」について、７月の段階では未集計でしたが、その後集計が出て、2024 年度の達成率 62.9%から 2025 年度の達成率 36.5%ということで、明らかな減少が確認されました。この評価を踏まえ、二次評価の原案としては「順調に進んでいます」としていますが、どのように判断するかということは、今回の議論で確定しなければならないと思っています。

基本目標４の今申し上げた項目ですが、例えば研修回数や外部事業所体験利用など、活動量に基づくものについては取組が順調であり、一定の評価ができますが、基本目標４の中核とも言うべき「誰もが活躍できる地域社会づくり」というところで言うと、この地域生活移行者数というのは、重視しなければならない項目だと思っています。そのため、二次評価の原案としては「順調に進んでいます」としていますが、私の個人的な意見としては、一段階下げるべきではないかと考えています。

○　西村座長：　ありがとうございました。続いて、今ご指摘いただきましたが、一通り委員の皆様の意見をお聞きした上で、基本目標４の４段階評価について最終的な判断をしたいと思います。

続いて、評価部会での総合戦略全般にかかる意見や、県議会における意見・要望等について事務局から説明をお願いします。

○　事務局（地域政策課）：　それでは、事務局から評価部会での総合戦略全体にかかわる意見を説明します。資料１「第３期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略　2025 年度評価報告書　概要版

（案）」をご覧ください。

資料１の８ページをご覧ください。先ほど、西村部会長、麦倉部会長から説明があったとおり、２つの部会で非常に多くの示唆に富むご意見をいただきました。そして、総合戦略全体にかかわる意見については、こちらのページの下段にある「全体評価」欄に記載しております。具体的には、「全体評価」欄の左側の３つめの丸にある、

・人口減少に歯止めのかからない状況が続いており、人口減少局面に対応した柔軟な対応が必要なこと
・産業クラスターの創出をめざすのであれば、若い世代の経済的安定をかなえるための住環境の整備も重要であること
・若い世代が将来に希望を持てるようになるためには、経済的基盤の安定が非常に重要であることから、基本目標１と基本目標３は表裏一体であり、基本目標間の取組を連携させること
・コロナ禍で転入が増加した自治体では、ハード面の整備や支援が追いつかず不満も生じており、人材の定着をめざすためには、スピードやバランスを見ながら施策を講じる必要があること

といった意見をいただきました。なお、この「全体評価」は、資料２の評価報告書本体では 12～13 ページに記載されていますので、後ほどご覧ください。

続いて、ページが前後しますが、資料１の４ページをご覧ください。評価部会において、先ほど麦倉部会長からお話がありましたが、基本目標２に関しては、全体で９つの小柱のうち、５つの小柱でＫＰＩ実績値が未把握となっていました。このうち、中柱（２）「地域資源を活用した魅力づくり」のうち、

・小柱①「県西地域活性化プロジェクトの推進」、
・小柱②「三浦半島地域魅力最大化プロジェクトの推進」、
・小柱③「かながわシープロジェクトの推進」、
・小柱⑤「水源地域の活性化」

の４つの小柱で、評価部会以降にＫＰＩの実績値が把握できました。これらのＫＰＩ達成率の平均値を更新しています。なお、いずれの小柱でもＫＰＩ達成率と県による一次評価には大きな乖離がないことから、小柱ごとの一次評価は、評価部会時点から変更していません。

続いて、資料１の６ページと資料２「第３期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略　2025 年度評価報告書（案）」の 109 ページをご覧ください。先ほど、麦倉部会長からもお話がありましたが、資料２の 109 ページにあるＫＰＩの進捗状況です。（表の）上から２つめの「障がい者施設入所者の地域生活移行者数」に関しては、評価部会以降にこのＫＰＩの実績値を把握しました。このＫＰＩの 2025 年度の目標値である 134 人に対して、実績値が 49 人となり、達成率は 36.5％となりました。その結果、この小柱全体のＫＰＩ達成率の平均値は 75.0％となりました。

一方で、先ほど麦倉部会長から、基本目標４全体の評価についてご意見をいただいたところですが、事務局としても、この小柱における県の一次評価は、事業部局も含め、検討します。

続いて、資料３「地方創生推進会議評価部会意見整理表」をご覧ください。こちらは、各部会における委員の皆様からの意見を、全体・基本目標ごとに整理した一覧表となります。この表の一番右の列の「県の対応」欄には、意見ごとに資料２「第３期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略　2025 年度評価報告書（案）」における

・12～13 ページの「神奈川県地方創生推進会議の評価」

・各基本目標の「神奈川県地方創生推進会議における二次評価」の「今後の取組に向けた意見」への反映結果などを記載しています。時間も限られておりますので、具体の内容に関する説明は省略しますが、資料２「2025 年度評価報告書（案)」と合わせてご覧ください。

最後に、資料４「県議会（令和８年第３回定例会）における要望等の概要」をご覧ください。評価部会における委員の皆様からの意見と二次評価案を反映した資料２「2025 年度評価報告書(案)」を９月から 10 月にかけて開催された県議会へ報告しました。その際に、県議会から出された要望等を一覧にまとめたものが資料４となります。これらの要望等については、今後の県事業に反映していきます。

○　西村座長：　ありがとうございました。それでは、議論に入ります。先ほどの説明のとおり、 ７月の評価部会で様々な意見をいただき、なおかつ、先ほど県議会からの意見なども紹介いただきました。本日は、特に先ほどの基本目標４に関するところが重要な点になるかと思います。その他の点でも結構ですが、委員の皆様からご意見をいただき、二次評価を確定したいと思います。会議時間が限られていますので、多くの皆様にご発言いただくためにも、一人につき ３分程度を目安に簡潔にご発言をお願いします。事務局でタイムキーパーをし、時間となった場合には、意見をまとめていただきたい旨、お声かけしますので、よろしくお願いします。

最初に、７月の評価部会において、都合がつかず欠席された秋吉委員、千田委員、本山委員からご意見をいただきたいと思います。それでは、急なご指名で恐縮ですが、秋吉委員からお願いします。

○　秋吉委員：　私はスポーツが専門なので、基本目標４のスポーツの施策に関して意見をさせていただきます。

中柱（１）小柱④の「スポーツに親しむまちづくり」の 2025 年度の取組結果と今後の課題と方向性について、

・誰もが生涯を通じて楽しめるスポーツ活動の推進
・スポーツ活動を広げる環境づくりの推進
・スポーツの持つ力による地域活性化、共生社会の実現

という３本の柱（主な取組）があり、スポーツに関わることを目的としたもの、また、スポーツを手段としたものということで、バランスよく柱を立てて取組をしており、とても良いと思います。しかし、神奈川県という地域を活かすのであれば、プロ野球やＪリーグ、Ｂリーグなど、神奈川県にはプロスポーツチームが多くあるので、今後は、「みる」スポーツに対して、もう少し力を入れて取り組んでもよいのではないかと思います。

また、 ＫＰＩについては、スポーツの実施について成果を測るのであれば、一番上のＫＰＩが「県民スポーツ月間の参加者数」となっていますが、今後はスポーツ実施率という指標で測った方がよいのではないかと感じます。

基本目標４の二次評価については、現状出ているもの（「順調に進んでいます」）で、私は異存ありません。

○　西村座長：　ありがとうございました。続いて、千田委員お願いします。

○　千田委員：　私は金融機関の立場として、基本目標１と３についてコメントします。

まず、基本目標１について、成長産業の創出や産業活性化、就業促進など、各取組が着実に進んでおり、県の一次評価「順調に進んでいます」というのは妥当であると考えています。

一方で、個別に見ていくと、進捗に差が見られます。例えば、ＫＰＩの「生活支援ロボットに関する特区の取組に参加する県内中小企業件数」、また、「ベンチャー企業に対する事業化支援の件数」は目標を大きく上回る一方で、「ＤＸに取り組んでいる中小企業の割合」は、目標に対して９割程度となっています。我々が日々、中小企業と多く接している中で、人手不足や事業承継などの経営課題を抱える事業者様が非常に多く、そのような中でこのＤＸの取組というのは、中小企業の生産性向上や新規事業創出・売上拡大といった産業活性化につながる重要なＫＰＩであると考えています。今後の取組に向けた課題と方向性に記載されていますが、優良事例の公表や補助金の申請手続きに関する支援、審査のポイントの公表など、中小企業に制度の理解を一層深めてもらうための取組を進めていただきたいと思います。

また、そもそもこういった支援制度を知らない事業者も非常に多く存在していると認識しています。物価高騰や人手不足、直近では金利上昇が継続していることなど、事業者が抱える課題は多様化していますので、こういった事業者に対し、地域金融機関として、県と連携して支援していきたいと考えています。

基本目標３について、こちらも「概ね順調に進んでいます」という評価は妥当であると考えています。現在、共働き世帯が非常に増えている中、子育て支援に加えて、就労環境についても複合的に評価していくことが重要です。例えば、男性の育児休業の取得（促進）の取組がありますが、件数が順調に増加しており、企業側の環境づくりが着実に進んでいるものと受け止めています。ただ、今後は、（「量」だけでなく）実際に子育てをしながら働き続けられる、環境の「質」も重要だと思います。安心して子育てができるという点では、多様な教育や保育サービスなど、そういった「質」の面での充実についても評価を検討することが必要になると考えています。

また、将来を考えると、柔軟で自立した人材を育成していくことも非常に重要であり、地域金融機関としては、金融教育やキャリア教育などを通じて、柔軟で自立した人材の育成を県と連携して支援していきたいと考えています。

最後ですが、ＫＰＩは施策を評価する上で非常に重要な指標だと考えています。一方で、計測まで時間がかかるＫＰＩもあり、時代の流れが非常に早い昨今においては、タイムリーに把握できるものにしていくことも重要だと思いますので、指標の見直しについても検討した方がよいと思いますし、また、ＫＰＩの先にある効果についてもしっかり見ていく必要があると考えています。地域金融機関としても、引き続き、神奈川県と連携しながら、施策を支援していければと思いますので、よろしくお願いします。

○　西村座長：　ありがとうございました。続いて、本山委員お願いします。

○　本山委員：　全体的な感想ですが、評価については、皆さんが評価しているとおり同調できると思います。しかし、私が住んでいるのは県西地域ですので、人口が減ってきている地域の代表として話をすると、どうしても県の東の地域に力が入っている取組が多いと感じました。

基本目標１については、「神奈川県の成長力を生かして」という非常に良い目標であるにも関わらず、成長戦略に関する施策は、県東地域ばかりのような感じがします。例えば、中柱（２）小柱②の「農林水産業の活性化」は、一次評価が「順調に進んでいます」となっていますが、我々の県西地域では、本当に順調に進んでいるのかと疑問に思います。また、中柱（３）小柱②の「産業を支える人材育成」については、私は農林水産業において人材育成が進んでいるとはあまり感じられません。

基本目標２については、観光の振興ということで、横浜、川崎、箱根など、神奈川県は黙っていても観光客が訪れる場所がありますが、そうではない場所、観光地としてこれから磨いていかなければならない場所もあるのではないかと思っています。観光客が訪れる場所だけを評価し、「順調に進んでいます」と書いてありますが、もう少し掘り下げた上で評価してもらいたいと思います。また、中柱（２）の「地域資源を活用した魅力づくり」については、県西地域と三浦半島の取組があります。小柱①の「県西地域活性化プロジェクトの推進」では、一次評価が「概ね順調に進んでいます」とあり、実際のところ活性化してないとは言いませんが、人口が減っているのは間違いありません。数値目標の「県西地域の社会増減数」のところで、若干増えているように見えますが、基本的に小田原を中心として増えているだけで、その周りのところでは増えていないので、これだけを見て評価されると、地域全体の状況としては偏りがあると感じています。

中柱（３）の「移住・定住の促進」についても、様々なイベントを実施しており、取組は順調だと思いますが、その結果、どれだけの人が移住につながっているのかという点まで追って欲しいと思いました。

基本目標３については、中柱（１）の「結婚・出産の支援」の小柱②の「妊娠・出産を支える社会環境の整備」ですが、資料１では「妊娠・出産をさせる社会環境の整備」となっており、このような言葉を使うのかと驚きました。また、中柱（２）の「育児の支援」については、例えば、経済支援という枠組みで考えると、各自治体でそれぞれ財政状況が違うので、取組内容に結構ばらつきがある状態であり、結果的に東京に人口が流出しているという状況もあるかと思います。一次評価は「概ね順調に進んでいます」ですので、これから更に、様々な面で支援をするような政策をみんなで考えていければと思いました。

基本目標４については、様々な取組をしていますが、例えば、数値目標の「『外国人と日本人が国籍、民族、文化の違いを理解し、認め合ってともにくらすこと』を重要だと思う人の割合」では、各年度の数字が横ばいのため、なぜ数字が横ばいなのか、取り組んでも効果がないのであればやり方を変えることも考えながら、今後は評価をしていかなければならないと感じました。

○　西村座長：　ありがとうございました。お三方からのご発言は一通りいただきましたが、それ以外に何かご意見ありますか。

（境委員が挙手）

○　西村座長：　境委員お願いします。

○　境委員：　今の「妊娠・出産をさせる社会環境の整備」という表記については、資料２の 60 ペ

ージには「妊娠・出産を支える社会環境の整備」と書いてあるので、誤記ではないでしょうか。

○　西村座長：　この点について、事務局から一言いただけますでしょうか。

○　事務局（地域政策課）：　ご指摘のとおり誤記になります。資料の確認が不十分であり大変申し訳ございません。評価報告書の公表までには資料を修正いたします。

○　西村座長：　対外的に公表される資料ですので、重要なご指摘でした。ありがとうございました。

その他いかがでしょうか。特に基本目標４は、７月の評価部会の段階ではＫＰＩが出揃わない中で判断せざるを得なかったですが、ＫＰＩが判明した結果、一次評価が「順調に進んでいます」と「概ね順調に進んでいます」で拮抗するような状況になっているということです。それを踏まえて、二次評価を厳しめに見るのか、原案どおりとするのかが重要になってくると思いますが、改めて麦倉委員からご意見があればお願いします。

○　麦倉副座長：　先ほど申し上げたとおりですが、このＫＰＩ「障がい者施設入所者の地域生活移行者数」の達成率の大幅な減少は看過できず、実績値に関しても、昨年と比べてかなり下がっている状況です。それぞれ事情がある中で、強度行動障がいのある方など、地域での支援体制が十分でないために移行が進みにくい方が、今も施設で暮らしている現状があるとはいえ、この実績値で十分とは言えないというのが私の判断です。

それから、先ほど秋吉委員からスポーツについて言及いただき、基本目標４の二次評価は原案どおりでよいというご意見がありましたが、実績値で成果を見るべきだというご意見もありました。これに関しても、資料２の 98 ページになりますが、県の一次評価では「概ね順調に進んでいます」という評価ですが、ＫＰＩの達成率で言うとやや厳しめの数値が出ています。基本目標４全体で見ると、７月の評価部会では「順調に進んでいます」という原案を出しましたが、「順調に進んでいます」とは言い難い数値が現時点で出てきていることを踏まえると、基本目標４の二次評価は、このままというわけにはいかないというのが私の考えです。ただ、評価部会の中で各委員から意見が出てきましたが、それに対する県の対応については、資料３のとおり、非常に細かく対応してもらいましたので、その点は感謝しています。

○　西村座長：　ありがとうございました。先ほど、本山委員からも、もう少し頑張って欲しいという発言を所々でいただきましたし、麦倉部会長からいただいたご意見も非常に重要だと思います。

その他、皆様からも、ぜひ忌憚のないご意見をいただければと思います。

（意見なし）

○　西村座長：　それでは、この基本目標４の二次評価については、最終的にどうするか、この後相談したいと思いますが、まずは、委員の皆様からいただいた意見について、事務局から回答をお願いします。

○　望月地域政策課長：　課長の望月です。よろしくお願いします。まず秋吉委員からのご意見についてです。スポーツについて、神奈川県の特色を生かすということで、神奈川県にはサッカーや野球など、多くのプロスポーツがあるので、観戦に力を入れるといった視点を新しく加えたらどうか、というご意見をいただきました。この視点は今まで重視していなかったので、検討したいと思います。

それと、県民スポーツ月間の参加者数のＫＰＩについてお話をいただきました。スポーツの実施率をＫＰＩとして考えた方がよいのではないか、というお話でしたので、この点については研究したいと思います。

次に、千田委員からのご意見についてです。成長産業の創出について、良い面と悪い面があるということで、良い面については、生活支援ロボットやベンチャーは目標を上回っているが、中小企業のＤＸが目標に足りないのではないか、というご指摘をいただきました。具体的な方法として、優良事例を紹介してはどうか、というご意見をいただきました。こういったことは既に実施しているかと思いますが、改めて確認し、引き続き取り組んでいきたいと思います。

また、金融機関と一緒に取り組んではどうか、という心強いお言葉をいただきましたので、この点も踏まえて、検討したいと思います。

次に、子育て支援についてご意見をいただきました。就労環境を総合的に評価することが必要であるというご意見です。男性の育休取得にも言及いただきました。子育てをしながら働ける環境については意識しているつもりですが、改めて意識を強めて事業を実施していきたいと思います。

そして、柔軟な教育について、具体的に金融教育を挙げていただきましたが、これも意識しているつもりではありますが、改めて強い意識を持ちたいと思いました。

最後にＫＰＩについて、指標によっては計測までの時間差があることついては認識しておりますが、総合計画との兼ね合いもあるため、研究したいと思います。また、ＰＤＣＡを回すにあたり、時期を捉えたＫＰＩにすることも考えていきたいと思います。

本山委員からのご意見についてですが、まず大きな部分として、本山委員は松田町長のため県西地域についてのご意見を強くいただいたと考えています。成長戦略などは県東地域の施策を強く感じるというご意見をいただきました。また、産業を支える人材について、農林業や水産業に携わる人材という視点が足りないのではないか、というご指摘もいただきました。

そして、観光についても、横浜や箱根といったところだけではなく、これに準じるような場所も想定することが大切である、というご意見をいただきました。具体的には、県西地域や三浦半島などを意識する必要があり、さらに県西地域といっても一括りにするのではなく、小田原中心で動いているところもあるので、より細かく地域を見た方がよいのではないか、というお話をいただきました。

また、移住の取組について、取組だけではなく結果も補足してほしい、というご意見ですが、これについては当然の話ですので、検討を進めたいと思います。

最後に、外国人と日本人については効果が出ておらず、もう少し検討を進めるべきというお言葉をいただきました。この点については必要であれば検討を進めたいと思います。

○　西村座長：　ありがとうございました。それでは、議題１について取りまとめに入ります。皆様から様々な意見が出ましたが、基本目標１・２・３については、特に強い指摘はなかったと認識しています。従って、基本目標１と基本目標２は「順調に進んでいます」、基本目標３は「概ね順調に進んでいます」という二次評価をすることについて、原案どおりでご承認いただけますか。

（意見なし）

○　西村座長：　ありがとうございます。最後に、基本目標４については、原案では「順調に進んでいます」となっていますが、その後、評価部会時点では未把握であったＫＰＩが判明したことにより、一次評価で「順調に進んでいます」と「概ね順調に進んでいます」が拮抗するような状態になりました。評価部会開催時には、一部のＫＰＩが未把握の中で、暫定的に「順調に進んでいます」という二次評価にしましたが、今回ＫＰＩ（「障がい者施設入所者の地域生活移行者数」）が判明した結果と照らし合わせると、「順調に進んでいます」と「概ね順調に進んでいます」のどちらの方が、県政、あるいは県民の皆様にとってプラスの効果をもたらすのかと考えた時に、本山委員からもう少し頑張って欲しいというご意見があり、麦倉委員からも見逃せないところで悪い数字が出ているというご指摘もありました。ですので、地方創生推進会議としては、やはり県政にプラスになるような方向で評価を下すというのが妥当であると考えますので、原案は「順調に進んでいます」となっておりますが、最終的な決定としては、「概ね順調に進んでいます」に１段階評価を下げることを座長から提案します。皆様いかがでしょうか。

（異議なし）

○　西村座長：　ありがとうございます。それでは、基本目標４の二次評価は「概ね順調に進んでいます」を本会議の決定とします。また、全体評価についての記載ページや、基本目標ごとに記載する今後の取組に向けた意見など、評価報告書に反映すべき事項については、皆様からいただいた意見を踏まえ、私と事務局で調整し、適宜、いただいた意見を報告書に追加・修正したいと思いますが、いかがでしょうか。

（異議なし）

○　西村座長：　ありがとうございます。それでは、議題１は以上とします。

議題（２）地域未来戦略の策定を受けた対応について

○　西村座長：　続いて、議題２「地域未来戦略の策定を受けた対応」です。国が色々と新しい取組をしているので、それを受けた対応として、議題２に進みます。まずは事務局から説明をお願いします。

○　事務局（地域政策課）：　資料５「地域未来戦略の策定に伴う県総合戦略の対応方針（案）」をご覧ください。

国の地域未来戦略の策定に関しては、今年７月に開催した評価部会で一度ご説明しましたが、今回、改めて、国の地域未来戦略の概要を説明した後に、県の総合戦略の対応方針案を説明します。

それでは、資料５の２ページをご覧ください。ページ数は資料の右下に記載があります。まずは

「地域未来戦略の全体構成」です。こちらは、７月の評価部会の際にも説明したので、今回は、簡単に説明しますが、図の中段にある「政策目標」の３つは、昨年 12 月に閣議決定された「地方創生に関する総合戦略」を踏襲したものになっており、このうち、特に「強い地域経済の構築」を前面に押し出したものとなっています。

続いて、資料５の３ページをご覧ください。「地域未来戦略と総合戦略の関係」です。３ページの上部にも記載していますが、地域未来戦略は、まち・ひと・しごと創生法で規定する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」として位置付けられていることから、地方版総合戦略での「地域未来戦略」の勘案が必要となります。そこで、今回は、第３期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略の対応を検討します。

続いて、５ページをご覧ください。このページでは、今回、国が策定した「地域未来戦略」と今年６月に関係副大臣等会議で決定された「地域未来戦略の政策パッケージ」、昨年 12 月に閣議決定された「地方創生に関する総合戦略」の関係をまとめたものです。図の左側にある「地方創生に関する総合戦略」と「地域未来戦略」は、それぞれまち・ひと・しごと創生法で定める「総合戦略」とされており、「地方創生に関する総合戦略」の大部分が「地域未来戦略」に引き継がれています。

一方、図の右側にある「地域未来戦略の政策パッケージ」は、今年６月に開催された副大臣等会議で決定されたもので、「地方に大規模な投資を呼び込み、地域に産業クラスターを戦略的に形成していくとともに、地方の大きな伸び代である多様で魅力ある地域資源を最大限に活用し、地場産業を含む地域の産業、地域経済の持続的な成長を図っていく」ための政策パッケージとなっています。そして、この政策パッケージの内容は、「地域未来戦略」に取り込まれています。

つまり、７月に閣議決定された「地域未来戦略」は、昨年 12 月に閣議決定された「地方創生に関する総合戦略」と、今年６月に副大臣等会議で決定された「地域未来戦略の政策パッケージ」を合わせたものと理解できます。

また、５ページの下に地域未来戦略の内容をまとめていますが、目標と基本的方向は「地域未来戦略の政策パッケージ」の内容を反映しているものの、地方創生 2.0 基本構想で掲げた「めざす姿」や「基本姿勢・視点」なども踏まえて推進するとされています。そして、地域未来戦略の３つの政策目標のうち、「強い地域経済の構築」は、「地域未来戦略の政策パッケージ」の内容を反映し、「豊かな生活環境の実現」と「選ばれる地方の実現」は、「地方創生に関する総合戦略」の内容を踏襲したものとなっています。

続いて、６ページをご覧ください。こちらは、「地域未来戦略」と「地域未来戦略の政策パッケージ」、「地方創生に関する総合戦略」の構成を比較したものですので、後ほど参考にご覧ください。

続いて、８ページをご覧ください。ここからは、国の地域未来戦略の策定を受けた、県総合戦略の対応の検討となります。ここまで地域未来戦略の概要を説明しましたが、地域未来戦略の新規要素は「地域未来戦略の政策パッケージ」の内容が反映される程度であり、取組内容も含め、昨年 12 月に閣議決定された「地方創生に関する総合戦略」を概ね踏襲したものとなっています。

そして、このページの下段にありますが、国から地方に対しては、地域未来戦略を勘案した地方版総合戦略の策定・改訂要否について、それぞれの地域の実情に応じて検討するように求められています。

最後に９ページをご覧ください。昨年度、「地方創生に関する総合戦略」への対応を検討した際に、「地方創生に関する総合戦略」に掲げられた政策は、県の総合戦略でも位置付けられると整理

し、県の総合戦略の改訂を見送りました。

今回の地域未来戦略も、「地方創生に関する総合戦略」を概ね踏襲していることを踏まえると、今回も、県の総合戦略を改訂しなくても「地域未来戦略」の考え方はカバーできると考えています。

さらに、現行の総合戦略の基本目標１では、「神奈川の成長力を生かして魅力的なしごとを産み出し、一人ひとりが生き生きと働ける社会を創る」を掲げ、既に地域産業活性化の取組を幅広く位置付けており、「地域未来戦略」の考え方を満たしています。

こうしたことを踏まえると、今回の国の地域未来戦略の策定をもって、第３期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂は行わない、と整理したいと事務局としては考えています。

○　西村座長：　ありがとうございました。政権が石破内閣から高市内閣に変わり、地方創生が産業支援や経済開発に軸足を移した部分がありますが、とはいえ、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、法律に基づいて継続しているということです。さらに、この経済に軸足を振った部分については、県では地域産業クラスター計画を策定するということで、こちらは地域政策課の管轄事項ではなく商工系の部署になるのではないかと想像しますが、そういった形で県ではしっかりと現行の国の方針にも対応できる構えになっている説明だと理解しました。これについて、何かご意見はありますか。

○　麦倉副座長：　原案では改訂しないということで、神奈川県の総合戦略の方が、より幅広い対象を見据えていると理解しました。それに関しては、異論はありませんが、地域未来戦略の方で、資料５の２ページになりますが、真ん中の赤の部分（政策目標「豊かな生活環境の実現」）に「災害対応の強化の促進」が掲げられています。昨今、大雨の影響で、神奈川県でも命を落とされた方が出ました。予想できない大雨等もありますが、こうした災害対応の強化の促進は、現状の総合戦略の中ではどの部分に位置付けているのでしょうか。

○　西村座長：　ありがとうございます。一問一答で、事務局からお願いします。

○　事務局（地域政策課）：　ご質問の災害対応の強化の促進については、資料２の 117 ページをご覧ください。基本目標４の中柱（３）「持続可能な魅力あるまちづくり」の小柱②「安心してくらせるまちづくり」の途中から、118 ページに移りまして、キ「防災ＤＸの推進」やク「消防団・自主防災組織の対応力強化」、ケ「遊水地や流路のボトルネック等の整備や土砂災害防止施設の整備・維持管理、上下水道施設・民間大規模建築物などの耐震化などの取組の推進」を掲げています。

第二期までの県の総合戦略では防災の取組が薄かったので、第三期の総合戦略を策定した際に防災の取組を追加しました。ただ、この計画も策定したのが三年前ですので、策定当時と状況が変わったところもあります。ですので、来年度、次の計画の検討を進める中で、現状では足りない部分を検討していきたいと考えています。

○　西村座長：　ありがとうございました。今のやり取りも含めて、その他ご意見はありますか。

○　石川委員：　現行の県総合戦略で国の新たな方向性をカバーできるということについては否定し

ませんが、力強い地域経済の構築という視点に立つと、新たに強化すべき政策や、予算の重点配分について議論する場はあるのでしょうか。

○　西村座長：　ありがとうございます。事務局から回答をお願いします。

○　望月地域政策課長：　新たに議論する場について、お答えします。まずは、地域未来戦略のスキームについて紹介します。国から 191 億円が神奈川県に配分されました。国で計画する A 計画、県域で計画する B 計画、市町村で計画する地場産業の C 計画があります。県で 191 億円をどのように使用するのかという大枠を考え、議会等に報告し、市町村に説明しました。

結果として、191 億のうち 95 億円を県で使用し、残りの 95 億円を市町村に配分して、それぞれ取り組んでいくことになりました。県分の 95 億円は県議会等に相談しながら、計画を進めていくことになります。残りの 95 億は、当然市町村で計画を検討することになります。そして、自治体で検討した後、国が計画を承認するという手続きになりますので、最終的には国が計画を効果的であるか審査し、採択するか判断するだろうと考えています。

また、補足ですが、神奈川県で認められた計画は宇宙関連分野の一つだけで、知事が関連の会議に出席して公表しました。なお、県内市町村では、今のところ、まだ認められた計画はありません。

○　事務局（地域政策課）：　一点だけ補足します。A 計画や B 計画についてお話しましたが、資料５の３ページをご覧ください。「（参考）地域未来戦略に関する計画等の整理」の下部分に「戦略産業クラスター計画」、「地域産業クラスター計画」、「地場産業成長プラン」と記載がありますが、これがいわゆる A 計画、B 計画、C 計画です。「戦略産業クラスター計画」が、国が中心となって策定する A 計画、「地域産業クラスター計画」が、都道府県が中心となって策定する B 計画、「地場産業成長プラン」が、市町村が中心となって策定する C 計画です。この３つの計画は、まち・ひと・しごと創生総合戦略とは別に策定するよう国から求められており、現在、国の事前審査を受けているところです。

○　石川委員：　ありがとうございます。事務局の説明を伺うと、かなり偏りがあると思います。宇宙関連産業は夢があり、今後の日本にとって大切な分野だと思います。一方で、神奈川県には中小企業・零細企業が非常に多く、先ほども基本目標１について、産業の活性化や県内中小企業・小規模企業の活性化という話がありました。国の施策は、ＡＩ、半導体、宇宙などの大規模な産業投資に重きが置かれており、先ほど話題に上がった観光やスポーツなど、地域産業の視点が十分ではないのではないかと感じました。そのため、予算配分がどのようになるのかを伺いました。

日本経済を良くすることで労働者の賃金が上がり、経済の好循環につながるという考え方は理解しています。しかし、中小企業が非常に厳しい状況に置かれていることも事実です。こうした視点を踏まえ、県としてメッセージを発信し、ＰＲしていただけるとよいのではないかと思います。

○　西村座長：　ありがとうございました。事務局から回答はありますか。

○　望月地域政策課長：　先ほど事務局から説明しましたが、これらの計画には段階があります。ど

うしても県単位だと「地域産業クラスター計画」になりますので、産業クラスターを作るという計画になります。一方、「地場産業成長プラン」は市町村が作成しますが、地域に根差す産業を掘り起こして大きくしていこうということなので、石川委員がおっしゃったことは、「地場産業成長プラン」が主に担うのではないかと考えます。

ただ、先ほど少し誤解を与えるような表現をしてしまいました。宇宙関連分野の他にも、国と相談しながら進めている計画があり、これらは順次公表していきますので、お待ちいただければと思います。

○　石川委員：　ありがとうございます。

○　西村座長：　ありがとうございました。その他ご意見ありますか。

○　西村座長：　よろしいでしょうか。それでは、委員からご意見をいただきましたが、基本的には現行の総合戦略は改訂せず、現行計画を推進していくということでよろしいでしょうか。

（異議なし）

○　西村座長：　ありがとうございました。それでは、議題２は以上とします。

議題（３）神奈川県における地方創生の振り返りの方針について

○　西村座長：　続いて、議題３「神奈川県における地方創生の振り返りの方針について」です。事務局から説明をお願いします。

○　事務局（地域政策課）：　資料６「神奈川県における地方創生の振り返り方針（案）」をご覧ください。７月の評価部会で今年度の取組方針を説明した際に、地方創生の振り返りを行うと説明したところですが、その方針について、事務局案をまとめましたので、説明します。

２ページをご覧ください。資料５と同じく、ページ番号は資料の右下に記載しています。「これまでの地方創生の振り返りを行う経緯」です。これは、７月の評価部会の際に説明した内容ですので、簡単に説明しますが、

このページ中段の左側、「今年度の状況」ですが、

・今年度、令和７年国勢調査の結果が順次公表され、本県の地方創生が始まった 2015 年から 10 年間の人口動向の状況把握が可能となること、

また、右側、「計画の今後」ですが、

・現在の計画が来年度までの計画期間となっており、切れ目なく地方創生を推進するため、来年度、次期計画の策定を予定していること

・次期計画の策定に向けて、総括的な評価を実施していくことが求められること

という状況から、昨年、実施を見送った「地方版総合戦略の検証及び見直し」を実施し、次期計画の策定につなげていくものとなります。

３ページをご覧ください。こちらも７月の評価部会の際に説明しましたので、簡単に説明しますが、

・今年度は、マクロ的な視点での振り返り

・来年度は、ミクロ的な視点での第３期総合戦略の総括的評価

を実施していきます。

続いて、５ページをご覧ください。ここからは、今年度行う「これまでの地方創生の振り返り」の具体的な方法について検討します。まずは振り返りの目的ですが、このページの上に記載しているとおり、これまでの県における地方創生を総括的に振り返ることで、次期計画に向けて今後の県における地方創生の中長期的な方向性の検討につなげることです。なお、括弧書きにも記載していますが、具体の施策、取組内容の振り返りではなく、客観的なデータから、基本的な考え方や中長期的な方向性が適当であったか、という観点で行います。

続いて、手段ですが、目的でもお伝えしたとおり、まずは、客観的なデータ等で過去の振り返りを行い、次期計画に向けて今後の進め方を検討します。具体的には、客観的なデータの整理として、2015 年から 2025 年の 10 年間の人口動向と第１期から第３期の総合戦略で設定した数値目標の推移をまとめます。これに加え、過去の評価報告書の整理として、基本目標ごとの二次評価結果を整理します。

これらのデータを基にして、県による振り返りと地方創生推進会議による振り返りを行います。そして、地方創生推進会議から、今後の地方創生の進め方、今後の県における地方創生の進め方を検討していくために必要となる視点について意見をいただき、次期計画策定の土台にします。最後に、これらを冊子として整理し、公表する予定です。

続いて、６ページをご覧ください。振り返りに際しての細かい点を整理します。

まず、振り返りにおいて、議題１で議論した評価報告書のような４段階評価は実施しません。これは、第１期総合戦略を策定した際に、中長期での定量的な目標値などは設定しておらず、４段階評価を行う基準が不明確であり、４段階評価の実施に適さないと考えられるためです。

そして、振り返りの単位は、総合戦略の４つの柱とします。これは、第１期から第３期に至るまで、全体を振り返る切り口として適当と考えます。もし、小柱ごとの評価とした場合、計画期間ごとに小柱の体系が変わっており、過去から一貫した振り返りが行えません。

６ページ下の四角囲みの部分は、ここまでの話をまとめたものになりますので、参考にしてください。

続いて、７ページをご覧ください。アウトプット資料の構成イメージです。５ページの最後にも記載していますが、最終的には冊子にまとめ、振り返り結果は公表する予定です。

最初に「これまでの総合戦略の概要」をまとめ、「2015 年からの人口動向」、「これまでの政策の振り返り」、「今後の進め方」といった構成にする予定です。

「１　これまでの総合戦略の概要」は、議題１で議論した評価報告書案の冒頭部分のような記載をイメージしています。

「２　2015 年からの人口動向」は、令和７年３月に改訂した「神奈川県人口ビジョン」のダイジェスト版のようなイメージで、実際の総人口の推移と 2015 年国勢調査に基づく将来推計人口の比較、出生動向、婚姻動向、社会増減、東京都との人口移動の状況、雇用状況などをまとめる想定です。

「３　これまでの政策の振り返り」は、事務局において、第１期からの数値目標の推移と二次評価結果を整理し、その上で県の振り返りを記載します。そして、次回の地方創生推進会議で委員の皆様に議論いただく予定の振り返りの結果を記載します。

「４　今後の進め方」は、こちらも次回の地方創生推進会議で委員の皆様に議論いただく予定となっており、今後の地方創生の進め方について意見をまとめたものを記載します。なお、今回作成する冊子ですが、議題１で議論した評価報告書のようなボリュームにはならない見込みです。

８ページをご覧ください。こちらは、国が令和６年に行った「地方創生 10 年の取組と今後の推進方向」の構成となりますので参考にしてください。本日の会議の参考資料２として、国が公表した資料も用意していますので、参考にしてください。

最後、10 ページをご覧ください。今後のスケジュールです。本日の会議でご議論いただいた振り返り方針を基に、事務局で振り返り資料の素案を作成します。振り返り資料の素案では、各種統計データの整理と数値目標の実績と二次評価結果の推移を整理した上で、４つの柱ごとの県による振り返りをまとめることとします。そして、１月下旬ごろに第２回地方創生推進会議を開催し、県の素案を基に、地方創生推進会議の皆様に地方創生の振り返りを議論していただきます。そして、その結果をまとめ、令和９年第１回県議会定例会へアウトプット資料を報告し、３月下旬に公表する予定です。

このように、地方創生の総括的な振り返りを行いたいと考えていますので、振り返りの方法や視点など、委員の皆様からご意見をいただければと思います。

○　西村座長：　新しい地方創生の計画を策定するにあたり、第３期総合戦略の振り返りだけでなく、過去 10 年間の取組を振り返った上で次の方針を考えるということでした。議会からも 10 年間の地方創生の成果や課題を十分に検証してほしいという意見も出ていますので、取組をやりっぱなしにしないことが大切だと思います。この件について、見直しの方針や手法、着眼点など、何かご意見はありますか。

○　石川委員：　10 年間の振り返りでは、人口などの数値だけでは分かりにくい面もあるため、社会や街並みの変化を写真でも示すと分かりやすいと思います。10 年前の写真を取り寄せるのは難しいかもしれませんが、例えば市役所の周辺など、同じ場所の過去と現在の写真を比較できれば、街並みがどのように変化したのか、どのような点が良くなったのかが分かり、数値では測れない変化についても議論できるのではないでしょうか。また、将来、さらに 10 年後に振り返る際にも、変化を確認する手がかりになると思います。

○　西村座長：　ありがとうございます。一問一答で（事務局から）お願いします。

○　望月地域政策課長：　ビジュアルで見せるということはとても重要だと思います。紙面の都合はありますが、掲載を検討します。

○　西村座長：　ありがとうございます。直感的に分かることも大事だと思います。その他ご意見はありますか。

○　麦倉副座長：　基本的な柱の部分に関して振り返りをどうするかということについて、提案してもらいました。資料６の６ページを見ると、総合戦略の４つの柱で振り返りを行うということですが、資料６の６ページの真ん中の点線囲みの部分の「③「ひと」を育てる」で、「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」という括弧書きが付いています。そこで気になるのは、人口を増やすということは当然大事な視点で、その分析も大事ではありますが、例えば、基本目標３の若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえることについて、子育てをする側の視点はありますが、「神奈川の未来を担う子どもたちを育てる」という子どもたち側からの視点が抜けてしまっています。「神奈川の未来を担う子どもたちを育てる」に何が入っているかというと、（資料２の）68 ページに記載されている、子どもをどうやって増やすかということだけではなく、今、存在している、生きることに困難を抱えている、例えば、社会的養護が必要な子どもたちが、より家庭的な環境で安心して暮らすことができるような、主な取組イ「里親等への委託」や、主な取組ウ「社会的養護が必要な子どもたちの目線に立った権利擁護」など、とても大事な視点が入っています。評価の仕方は色々あると思いますが、少なくとも里親委託率に関しては、資料２の 72 ページを見ると、この何年かはほとんど進んでいないという状況があります。そもそも里親委託が日本ではなかなか進んでいないという状況もあります。この「③「ひと」を育てる」という目標について、振り返りをする時に、これからを担う子どもたち側からの視点を忘れないで入れてほしいと思います。

○　西村座長：　ありがとうございます。それでは、事務局からお願いします。

○　望月地域政策課長：　いただいた意見を強く意識し、振り返りを行います。委員の皆様からも、その他、振り返りについてご意見をいただきたいと思います。

○　西村座長：　特定の視点に偏ることのないようにしてほしい、という意見ですので、よろしくお願いします。麦倉委員から提案された視点に留意すると留保をつけた上で、原案どおり地方創生の振り返りを進めていくことでよろしいでしょうか。

（意見なし）

○　西村座長：　短期間で 10 年間の取組を振り返らなければならず、事務局も大変だと思いますが、特にどこが成果でどこが課題なのかメリハリをつけて、しっかり分かるようになっているとよいかと思います。それがきっと次につなげていくポイントになると思いますので、原案の作成をよろしくお願いします。

議題（４）その他

○　西村座長：　続いて、議題４「その他」です。事務局からお願いします。

○　長谷川地域政策課副課長：　西村座長をはじめ、委員の皆様におかれましては、本日は誠にあり

がとうございました。本日、議題（１）でご議論いただきました二次評価やご意見は、評価報告書へ反映させ、評価報告書を確定し、11 月末までに公表する予定です。

また、議題（２）では計画を改訂せずに現行計画を推進していくという方針でご了解いただきましたので、現在の総合戦略を着実に進めてまいります。

さらに、議題（３）では、地方創生の振り返り方針について、委員の皆様から様々な意見をいただきました。本日いただいた意見を踏まえながら、事務局で振り返りを進めます。その結果については、来年１月下旬ごろに開催を予定している第２回地方創生推進会議で報告し、委員の皆様にご議論いただきたいと思っています。

なお、次回の会議日程については、事務局から改めてメールにてご連絡します。

最後に、地方創生推進会議の委員任期は２年間であり、現在の任期は今年度末までとなっており、公募委員の後藤委員、志賀委員におかれましては、今年度末での交代となります。そこで、来年度以降の公募委員の募集を 12 月頃から開始する予定です。詳細については、現委員の皆様にもメールにてご案内しますが、皆様の周りで、公募委員にご興味のある方がいらっしゃいましたら、ご案内いただけますと幸いです。

○　西村座長：　それでは、最後となりますが、足立原政策局長がお越しですので、本日の会議全体を通してご発言いただきたいと思います。

○　足立原政策局長：　神奈川県政策局長の足立原です。本日、冒頭から参加できず申し訳ございませんでした。15 分ほど遅れての参加となりました。本日の会議では闊達なご意見、また、参考となるご意見をいただきまして、ありがとうございました。本日いただいたご意見を踏まえて、この神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略もそうですし、それから地方創生で取り組んできた、ちょうど 10 年の振り返り、こういったところをしっかりやらせていただきたいと考えております。

最後に、ご挨拶も兼ねて、私から３点ほどお話しさせていただきたいと思います。まず、総合戦略等でも掲げている四つの柱として、①仕事、産業をつくっていく、②人の流れを作っていく。観光とか移住といったもの、③人を育てる。子ども、子育て等々、④まちづくり、こういったところは本当に重要な柱だと私どもも思っております。ただ、それぞれが深い分野というか、それだけで一つの色々な取組を検討しなければならないもので、これを地方創生としてどのようにまとめて、どうアウトプットしていくのか、実は少し悩んでおります。このように言いますのも、県民の方の目線、県民の皆さんから見て分かりやすいかという点もあり、悩ましく感じております。シンプルに分かりやすくすると荒くなってしまうし、すごく細かくやっていくと、結局何を言いたいのかぼやけてしまうところがあり、そこは悩ましいところですが、これをいかに分かりやすく伝えていくかというのも我々県の責務かと思っております。

ただ、この議論の中で、委員の方々からご意見いただいたものもありましたが、テクノロジーがものすごく発達してきています。ＡＩをはじめ、最近もＰＨＰのニュースや個人情報の流出などの問題もありますが、テクノロジーが発達していく中で、こういった進捗を管理するテクノロジーも発達していると思います。委員からのご意見にもありましたが、ＫＰＩの即応性の話もあります。なるべく即応性がありすぐ分かるものを採用しようと思っておりますが、これがすぐ分かる時代になってきていますので、数年後に分かる指標を見ながらも、すぐ分かる指標でなんとか測れないか

ということも考えていかなければならないと思いました。

それから２つ目が、行政である我々、あるいは市町村も含めた取組のご意見をいただく場でもございますけれども、当然、担い手としての企業、あるいは事業者の皆さんが産業として一緒に関わっていただく部分。それから何より、県民、市民、町民の皆さんが行動を変えていただく。例えば、10 年前からここがちょっと変わったよね、ここはちょっと我慢しなきゃいけないよねとか、ここはもうテクノロジーが発達したから、こう変えていかなきゃいけないよね、当たり前だよね、というように行動を変えていっていただく、うまく誘導していかなければならない部分もあると思います。その県民の方々の行動を変えるというところも織り込んでいく必要があるかとも思いますので、これからまたご意見をいただきながら、考えていかなければならないと思いました。

最後に３つ目ですが、地方創生、あるいはまち・ひと・しごとは当然、全国共通のものです。その中で神奈川らしさって何だろうと。あるいは○○町らしさ、○○市らしさとは何だろう。もっと言うと、その中の○○地区らしさとは何だろう。冒頭の県民目線の話に戻りますが、やはりお住まいの方が、ああ、なんかいいよね、と。仕事もあるし、あるいは子どもを育てられるし、あるいはそれぞれお金や環境が違いますが、ここに住んでいてなんかいいよね、と思える事は何だろうかというのは地域ごとに微妙に違いますので、その辺りをどう考えながら進めていくのか。地域らしさというのをどう出していいか、このあたりも、できる限り県としても考えて政策を打っていきたいと思っておりますので、引き続き様々なお知恵を拝借できればありがたいと考えております。

○　西村座長：　それでは議事は以上ですが、皆様から提案すべき事案等ありますか。

（意見なし）

○　西村座長：　それでは、以上をもって、令和８年度第１回神奈川県地方創生推進会議を閉会します。委員の皆様におかれましては、ご多忙のところ、ご参加いただき誠にありがとうございました。